

2020
姫路赤十字病院誌
VOL.44



HIMEJI
RED
CROSS
HOSPITAL



姫路赤十字病院の理念と基本方針

理 念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかよう安全で良質な医療を実践します。』

基本方針

1 患者中心の医療

患者の人権と意思を尊重し、患者とともにチーム医療を実践します。

2 災害医療の充実

国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。

3 地域との連携

高度専門医療・急性期医療・救急医療をとおして、地域完結型医療に貢献します。

4 優れた医療人の育成

教育・研修・研究を推進し、人間性豊かな医療人を育て、医療水準の向上に努めます。

5 魅力ある職場づくり

働きやすい環境、誇りある職場を創ります。

6 健全経営

健全経営を持続し、医療活動を通じて社会に貢献します。

2017年4月改訂



患者さんの権利と責務

患者さんの権利を尊重します。

- 1 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 2 十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 4 自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
- 5 自己の診療情報の開示を求めることができます。
- 6 個人情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

患者さんにご家族の義務。

- 1 健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2 診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
- 3 医療者ととともに安全確認に参加し、治療に協力してください。
- 4 病院のルールに従い、他の患者さんへ迷惑にならないように努める義務があります。
- 5 医療費の支払い請求を受けた時は、速やかに対応してください。

2017年4月改訂

巻 頭 言

いま思うこと

副院長 甲斐恭平

新型コロナウイルス関連のニュースに翻弄される毎日。日々発表される感染者数や死亡者数、諸外国の医療現場の惨状が報告されるたびに、恐怖を感じずにいられません。姫路市内の院内感染によるクラスター発生や、某野球選手の感染などは、この姫路の近くまで感染が迫ってきていることを実感させられました。

コロナ感染対策会議が2月下旬から毎週一度開かれています。この地域では、手に負えない感染爆発は起こっていませんが、マスクやガウンなど補充の目途が立たないとの報告もあります。私たちの身の回りのあらゆる物品が世界中に張り巡らされた供給網を介し提供されていたということであり、いまこの最も効率的なシステムが崩れつつある、ということでしょう。医療現場を支えるものは医療従事者の献身的な働きだけではありませんでした。それを支える基盤として、いかに医療がモノに依存していたかということです。国内生産に舵を切っていますが、果たして世界規模で構築されたこのシステムは容易に修正されるのでしょうか。供給問題はこれから長く続く戦いの中で、何度も繰り返し襲ってくることでしょう。

予定されていた学会、地域の研究会、セミナーの中止が相次いでいます。本当に何もない夏になりそうです。自粛ムードが蔓延し、今まで当然のように行ってきた学会発表への参加意欲そのものが失われるのではないかと危惧しています。医療は日々の診療の中で経験を重ね進歩していくもので、学会や研究会は、自らの結果を報告し批判を仰ぐ場であり、そして他の医療機関の経験を疑似体験する場です。もはや今までのような形態で学会が復活することはないように思えます。学会発表のあとに論文を作成するという流れも、今後大きく変わると思います。

論文のあり方もここ数年で大きく変わりました。電子版で発表されることが多くなり、外科系雑誌の中には動画付きの、いわゆるマルチメディア型のものも出てきました。図書室を否定するものではありませんが、目的とする論文の検索という点では圧倒的にPubMedに軍配が上がっています。私たちに必要なことは、検索に引っかかりやすい単語を選ぶちょっとしたコツと、論文を読み解く読解力であると言えます。論文から得る情報量は個人の能力に左右されるのですから、今まで以上に自己学習が必要になります。なかなかしんどい社会です。

さて、本誌の発刊もVol144となりました。図書室で確認したところ、1982年、Vol.6が最も古く、それ以前のものは見当たりませんでした。処分されたのでしょうか。ワードプロセッサもない時代の論文作成がどれほど大変であったか、図書委員の編纂も大変なものであったと思われる。B5版の味わい深い小冊子でした。一度手に取ってみてください。

ゴールデンウィークが明け、感染者数がようやく減少に転じてきました。ここ1週間の国内感染者も一日100人を切り、ひとまず医療崩壊は免れた様子です。外出の自粛という強制力のない中で、私たち一人ひとりが頑張った結果でしょう。最後に、本誌が皆さんの手元に届く頃には、この感染症が終息に向かっていることを祈ってなりません。

目 次

巻 頭 言

2020年 姫路赤十字病院誌 巻頭言…………… 副院長 甲斐 恭平

論 文

大腸生検において観察されたタキサン系抗癌剤特有の

核分裂停止像について…………… 病理診断科 赤池 瑤子・他……(1)

当院における早期離床リハビリテーションの

実施状況について…………… リハビリテーション科 森本 洋史・他……(4)

高度急性期病院におけるリハビリテーションの現状と今後の課題

～急性期リハビリテーションは本当に必要?～… リハビリテーション科部 皮居 達彦・他……(8)

アルカプトン尿症による強直脊椎骨折の1例

…………… リハビリテーション科 生田 雅人・他……(13)

虫垂腺扁平上皮癌の1例…………… 外科 金平 典之・他……(16)

腹腔鏡下子宮全摘術後に発症した乳び腹水の一例…………… 産婦人科 中山 朋子・他……(22)

肝動脈塞栓療法後の肝細胞癌の予後とサルコペニア…………… 内科 森井 和彦・他……(26)

High flow nasal cannulaの導入により呼吸器離脱に成功した,

巨大ブラ・縦隔気腫合併急性肺炎の1小児例…………… 麻酔科 南 絵里子・他……(36)

外来化学療法センターの増床に伴う薬剤師業務の変化…………… 薬剤部 三葉智絵美・他……(39)

第32回院内学術研究発表会……………(41)

投稿規定……………(49)

患者プライバシー保護に関する指針……………(51)

投稿論文チェックリスト……………(52)

筆頭演者の利益相反自己申告書……………(53)

編集後記……………(54)